

2022年2月期 第3四半期 決算説明資料



株式会社 MS & Consulting

連結P/Lサマリー(前年同期比、予想進捗率)

単位：百万円	2022年2月期 第3四半期累計 (実績)	2021年2月期 第3四半期累計 (実績)	前年同期 差異	前年同期 比	2022年2月期 連結会計年度 (予想)	予想 差異	予想 進捗率
売上収益	1,269	800	468	58.5%	1,946	△ 677	65.2%
売上原価	△ 839	△ 795	△ 44	5.6%	—	—	—
販管費	△ 390	△ 502	112	-22.3%	—	—	—
その他営業損益	98	87	11	12.5%	—	—	—
営業利益	138	△ 409	547	—	211	△ 73	65.3%
EBITDA	193	△ 351	544	—	—	—	—
親会社の所有者に帰属する 当期利益	94	△ 284	379	—	145	△ 51	65.1%

✓ 前年同期比、売上収益58.5%増、営業利益547百万円増

- 長期に亘る緊急事態宣言等の発出で生じたMSRやコンサルの延期または中止による業績への影響は引き続き甚大
- そのような中、売上収益が着実な回復を続け、各種コストダウンも奏功し、3Q累計の社内予算では各段階利益が上振れ
- そのため、期初予定していた冬季賞与の一部削減は取り止め、全額支給へ

✓ 2022年2月期通期業績予想は達成の見込み

- 通期業績予想に対する売上収益進捗率は65.2%、3Q累計実績に4Q期初受注残高(国内)を含めた通期業績予想に対する売上収益充足率は94.7%
- 緊急事態宣言等の解除に伴いMSRやコンサルの再開に向けた引き合いが増加している一方、新たな変異株の感染拡大による業績への影響を見通すことが困難な状況

連結P/Lサマリー(四半期比) p1/2

単位：百万円	2022年2月期 第3四半期	2021年2月期 第3四半期	前年 同四半期差異	前年 同四半期比	2022年2月期 第2四半期	前四半期 差異	前四半期 比
売上収益	485	322	164	50.9%	474	12	2.4%
売上原価	△ 305	△ 302	△ 4	1.2%	△ 278	△ 27	9.6%
販管費	△ 129	△ 171	41	-24.1%	△ 123	△ 6	5.1%
その他営業損益	33	37	△ 4	-10.2%	33	0	0.0%
営業利益	84	△ 113	197	—	105	△ 21	-20.4%
EBITDA	102	△ 95	196	—	123	△ 22	-17.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	53	△ 80	133	—	67	△ 14	-20.9%

※説明は次ページに記載しております。

✓ 前年同四半期比、売上収益50.9%増、営業利益197百万円増

- 売上収益の増加要因はp4・5参照
- 売上収益50.9%増に対して売上原価は1.2%の微増に留まる、加えて販管費は24.1%の大幅減、以下が主な要因

【売上原価】

- 売上収益増に伴う紹介フィーなどの外注費の増加 (+)
- SaaS(注)の拡大を念頭に組織を再編、人件費から労務費への振り替え (+)
- MSR調査数減に伴うモニター謝礼や労務費の減少 (-)

【販管費】

- サーバーの増強に伴う賃借料の増加 (+)
- SaaS(注)の拡大を念頭に組織を再編、人件費から労務費への振り替え (-)
- 減資による租税公課の減少、広告宣伝費や地代家賃などの減少 (-)

(注)2021年4月7日開示の「2021年2月期決算短信〔I F R S〕(連結)」及び「2021年2月期決算説明資料」をご参照ください。

✓ 前四半期比、売上収益2.4%増、営業利益20.4%減

- 売上収益2.4%増に対して売上原価は9.6%の増加、販管費は5.1%の増加、以下が主な要因

【売上原価】

- 調査納品時期が3Qから4Qへずれ込んだ一部大手案件の外注費を計上 (+)
- 夏季賞与は一部削減したのに対し、冬季賞与は一部削減を取り止めたため、労務費が増加 (+)

【販管費】

- 夏季賞与は一部削減したのに対し、冬季賞与は一部削減を取り止めたため、人件費が増加 (+)
- 貸倒引当金の増加 (+)

国内における売上収益の内訳(四半期比) p1/2

単位：百万円

	2022年2月期 第3四半期	2021年2月期 第3四半期	前年 同四半期差異	前年 同四半期比	2022年2月期 第2四半期	前四半期 差異	前四半期 比
売上収益	474	312	161	51.7%	470	4	0.9%
MSR事業の売上収益	466	305	161	52.8%	461	5	1.1%
(内、MSR)	349	287	63	21.8%	373	△ 23	-6.2%
(内、コンサル)	116	18	98	555.4%	88	28	31.9%
(内、チームアンケート)	18	5	13	263.3%	8	10	134.4%
その他の売上収益	8	8	1	7.3%	9	△ 1	-9.8%
売上総利益	175	19	156	812.0%	192	△ 16	-8.4%
<売上総利益率>	37.1%	6.2%	30.9%	—	40.8%	-3.7%	—
MSR調査数	3.7万回	4.1万回	-0.4万回	-10.1%	4.0万回	-0.3万回	-8.1%
チームアンケート調査店舗数	0.8万店	0.2万店	0.6万店	270.1%	0.4万店	0.4万店	86.3%

※説明は次ページに記載しております。

✓ 前年同四半期比MSR、コンサルともに堅調な回復

- 前年同四半期に注力した低単価・低粗利の調査 + 送客型MSRが減少、調査数は0.4万回減少した一方、1調査あたり単価及び粗利は大幅に改善
- 一部の顧客では、MSRのみならず、オンライン研修などのコンサルが徐々に再開
- IT導入補助金の活用によるSaaSの受注が進展、その導入に伴うコンサルも増加
- 粗利の高いMSRやコンサルの増加により、売上総利益率が急上昇
- 受注高でも、前年同四半期比20.0%増の395百万円と堅調に推移

四半期毎受注高(百万円)	1Q	2Q	3Q	3Q累計	3Q累計前年同期比	4Q
前 期	225	409	329	963	—	455
当 期	647	531	395	1,573	63.4%増	—

✓ 前四半期比、売上収益は微増も、売上総利益は減少(売上総利益率は低下)

- 一部調査の納品時期が3Qから4Qへずれ込んだため、MSRの調査数及び売上収益は減少、コンサルでカバー
- 一方、p3記載の通り、この調査に要した外注費を計上、加えて、冬季賞与一部削減の取り止めにより労務費が増加

国内における売上収益の内訳(前年同期比)

単位：百万円

	2022年2月期 第3四半期累計 (実績)	2021年2月期 第3四半期累計 (実績)	前年同期 差異	前年同期 比
売上収益	1,239	775	464	59.8%
MSR事業の売上収益	1,213	754	459	60.8%
(内、MSR)	964	691	272	39.4%
(内、コンサル)	249	63	186	294.9%
(内、チームアンケート)	31	21	9	44.4%
その他の売上収益	26	21	5	23.5%
売上総利益	417	5	413	8466.9%
<売上総利益率>	33.7%	0.6%	33.1%	—
MSR調査数	10.1万回	8.7万回	1.3万回	15.2%
チームアンケート調査店舗数	1.4万店	0.7万店	0.7万店	92.0%

✓ 四半期比同様、前年同期比でもMSR、コンサルともに堅調な回復

- MSRは調査数で15.2%増、売上収益で39.4%増、コンサルは売上収益で294.9%増

資 産

単位：百万円	2022年2月期 第3四半期 (2021年11月30日)	2021年2月期 連結会計年度 (2021年2月28日)
現金及び 現金同等物	996	874
営業債権 及びその他の債権	196	383
流動資産合計	1,261	1,308
のれん	2,224	2,224
非流動資産合計	2,484	2,544
資産合計	3,744	3,852

負債及び資本

単位：百万円	2022年2月期 第3四半期 (2021年11月30日)	2021年2月期 連結会計年度 (2021年2月28日)
社債及び借入金	167	167
営業債務 及びその他の債務	557	569
流動負債合計	790	832
社債及び借入金	111	250
非流動負債合計	133	296
資本金	45	621
資本剰余金	2,009	1,555
利益剰余金	837	621
資本合計	2,821	2,725
負債及び資本合計	3,744	3,852

- ✓ 当3Qも売上収益増となった一方、回収による売掛金残高減少が影響し、前期末からは営業債権及びその他の債権が減少
- ✓ 金融機関からの長期借入金の当3Q末残高は278百万円

単位：百万円	2022年2月期 第3四半期	2021年2月期 第3四半期	前年 同四半期差異	前年 同四半期比	2022年2月期 第2四半期	前四半期 差異	前四半期 比
営業活動によるキャッシュ・フロー	244	91	153	169.0%	81	163	201.2%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 14	△ 10	△ 5	—	△ 2	△ 12	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 49	△ 105	56	—	△ 49	0	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	996	791	204	25.8%	815	181	22.2%

✓ 営業活動によるキャッシュ・フロー

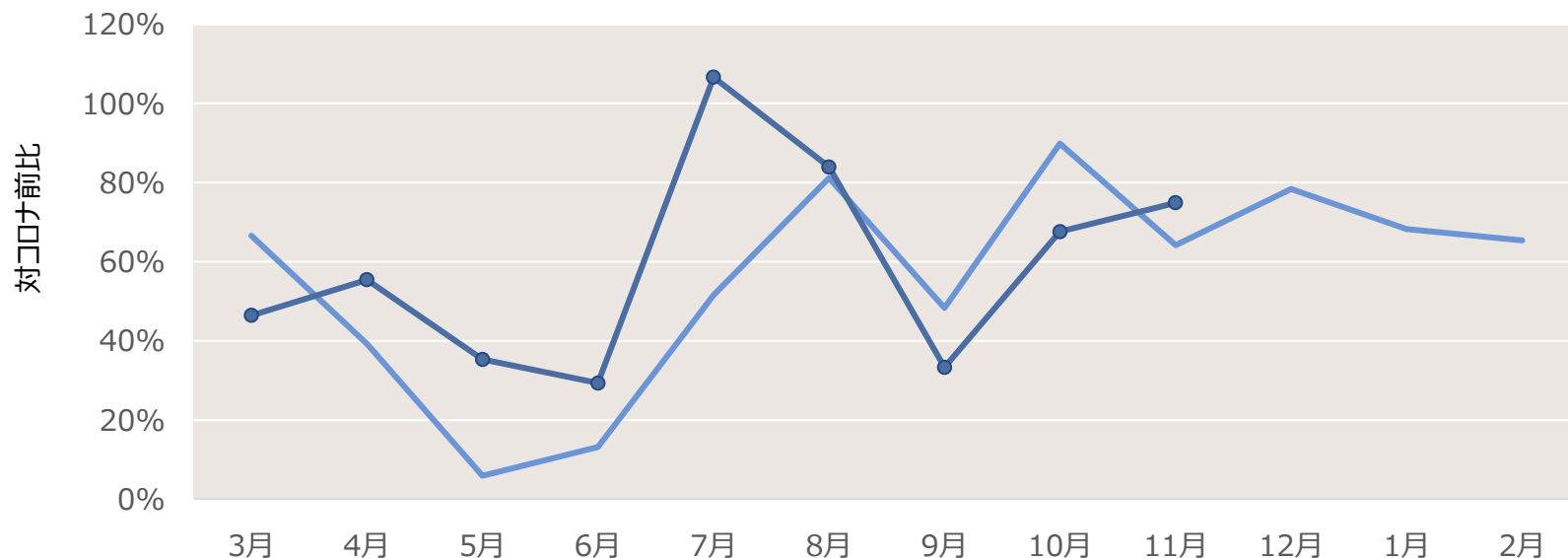
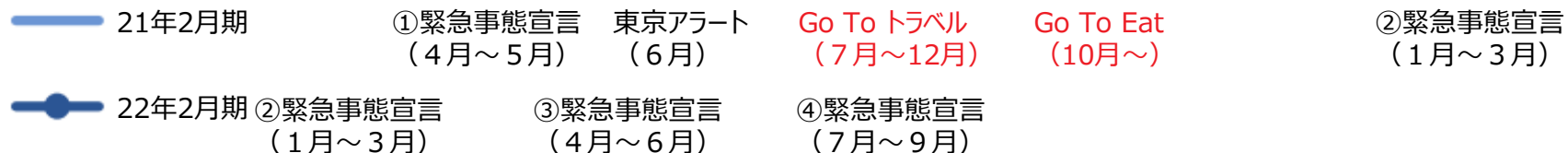
- 当3Qは税引前利益83百万円の計上、過納となっていた税金の還付92百万円による収入、売掛金の回収等により、営業活動によるキャッシュ・フローは244百万円の収入

✓ 財務活動によるキャッシュ・フロー

- 当3Qの支出は、借入返済41百万円とリース負債の返済7百万円

ミステリーショッピングリサーチ調査数 | コロナ前との比較

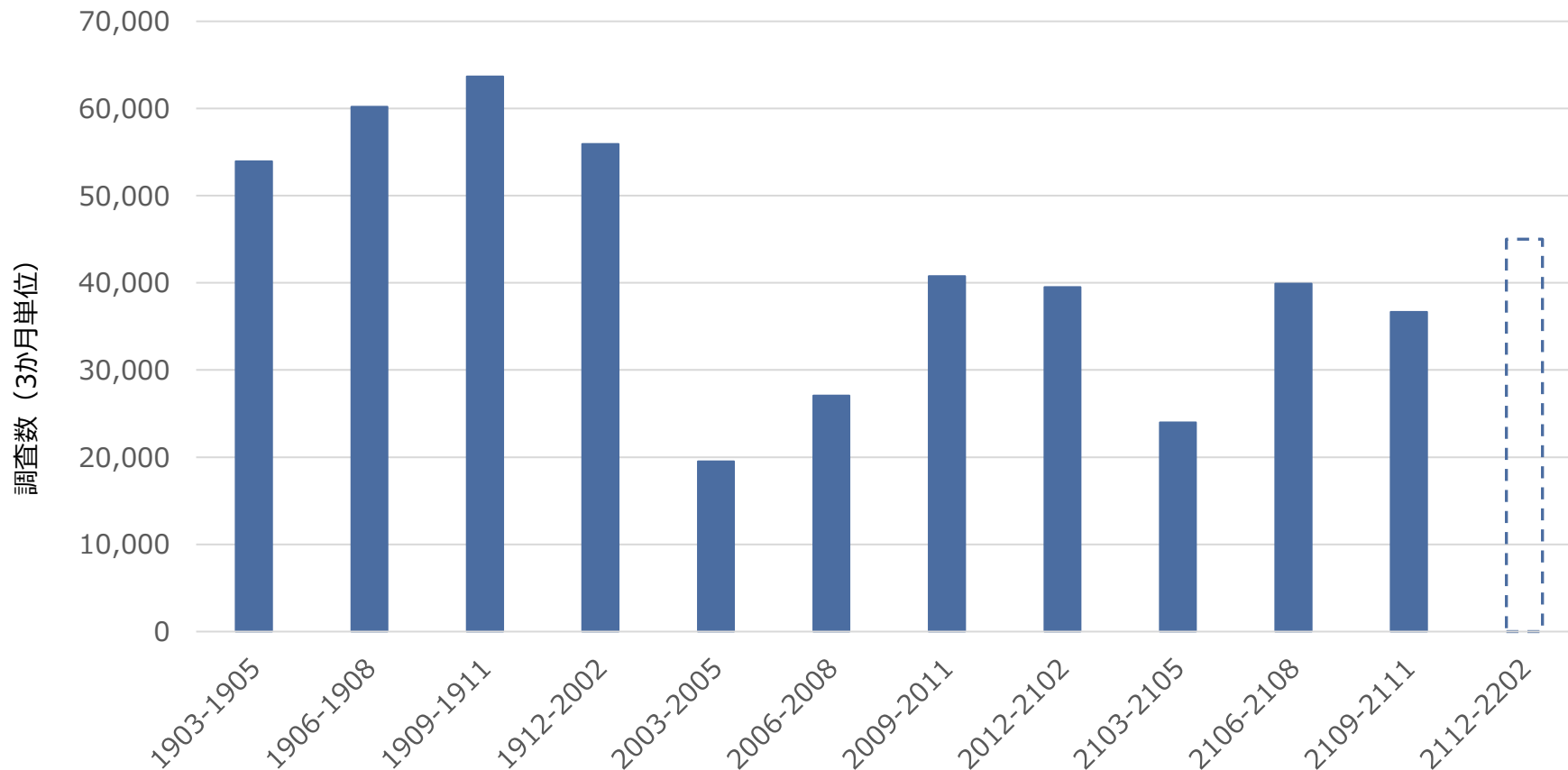
グラフ：21年2月期及び22年2月期の各月調査数を、コロナ前の19年3月～20年2月の各月調査数と比較



- ✓ 3QのMSR調査数は、コロナ前の19年9月～11月と比べ、57.6%の水準
- ✓ 3Qは10月に緊急事態宣言が解除されたものの、納品時期ずれや、政府による消費喚起策の一時停止等により、前年同四半期比でも89.9%の水準に留まる

(注)月単位の調査数は顧客事情等による変動が大きいため、今後は次ページの通り3か月単位での推移を開示予定です。

ミステリーショッピングリサーチ調査数 | コロナ前からの推移



✓ p1記載の4Q期初受注残高(国内)に対応する4Q調査予定数は45千件

免責事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的として、株式会社MS&Consulting（以下「当社」という。）が作成したものであり、いかなる有価証券の売買の勧誘を目的したものではありません。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しておりますが、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身の責任とご判断においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。